

コンクリ道路、新技術で普及なるか 固まる時間短縮

朝日新聞デジタル 8月2日(日)23時19分配信

ツイート 2

シェア 0



山口県宇部市で昨年6月にあった「1 DAY PAVE」を使った舗装工事=セメント協会提供

表面の白いコンクリートで舗装した道路が、増えてくるかもしれない。真っ黒なアスファルトより硬くて傷みにくいというえ、長い目でみれば費用も少なく済む。コンクリートが固まる時間の長さがネックだったが、これを解消した技術が登場。熱を吸収しにくく、街を涼しくする効果も期待できる。

山口県周南市の川沿いにある道路は、トラックが行き交う路面が白く輝く。3月の補修工事で、コンクリート舗装に変えた。使ったのは、1日で固まるセメント「1 DAY（ワンデー） PAVE（ペーブ）」。工事の担当者は「交通量が多く通行止めにできない道。早く交通開放できて助かった」と話す。

コンクリートはセメントと砂利などを混ぜたもの。化学反応でゆっくり固まりアスファルトよりも強度があるが、これまでは工事から2週間ほど道路を通行止めにする必要があった。しかし、業界団体のセメント協会が2009年に開発した「1 DAY」なら、通行止めは1日。緊急工事用の固まるのが早いセメントを使い、混ぜる水を少なくして強度を増した。